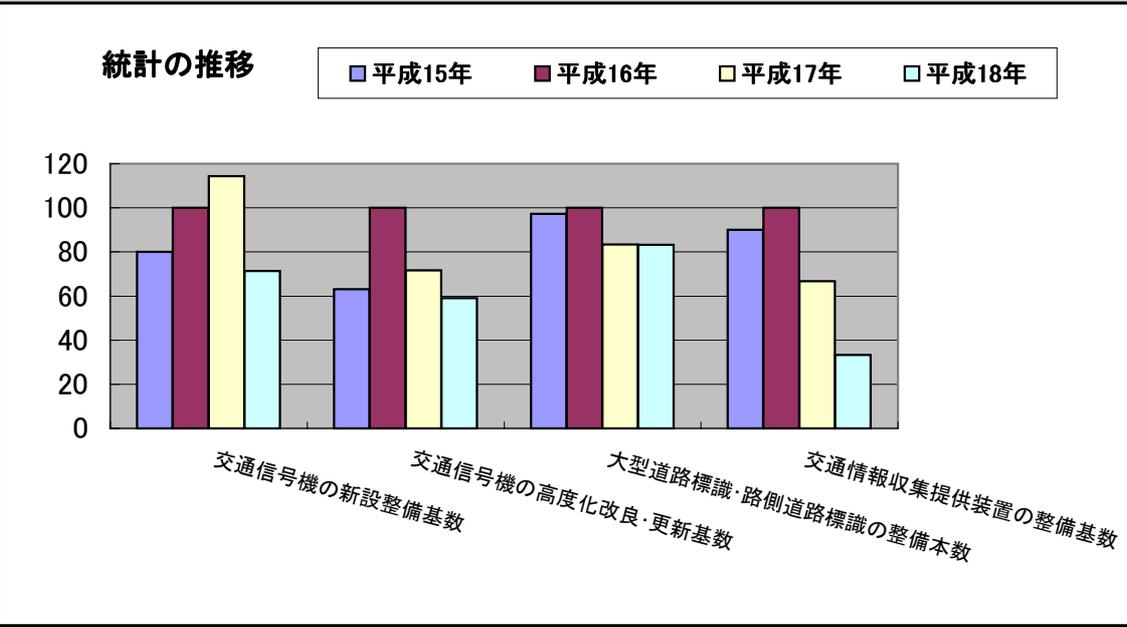


業務名	交通環境の整備
-----	---------

業務に関する統計

項目	統計の推移				単位
	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	
交通信号機の新設整備基数	28	35	40	25	基
交通信号機の高度化改良・更新基数	125	198	142	117	基
大型道路標識・路側道路標識の整備本数	3,676	3,781	3,154	3,146	本
交通情報収集提供装置の整備基数	54	60	40	20	基



<グラフは、平成16年を100とする指数で表した。>

業務の主なコスト

	事業名	平成18年度事業費(千円)	平成19年度事業費(千円)
1	国補交通管制センター設置費	235,141	192,938
2	国補交通信号機設置及び改良費	139,905	112,853
3	県単交通信号機設置及び改良費	65,615	64,858
4	道路標識設置費	63,852	47,382
5	道路標示塗装費	93,355	88,131
6	交通安全施設地中化事業費	42,049	42,411
7	安全・安心交通環境整備事業費	44,683	0
8	安全で快適な交通環境の整備事業費	87,559	0
9	くらしの道交通安全施設整備費	-	173,463
10	交通安全施設維持管理費	640,053	646,562
11	パーキングメータ等維持管理費	67,760	68,928
12	主要自動車道開通に伴う交通安全対策緊急事業費	-	35,559
13	国補交通安全施設調査費	10,581	6,512
合計		1,490,553	1,479,597

## 平成18年の取組み

交通事故が依然として高水準で発生していることを踏まえ、交通事故の犠牲者を一人でも減少させるため、関係機関・団体等との連携を強化し、県民生活に適応した交通環境の整備に努めた。

四日市サブセンターの下位装置の更新等交通管制センターの高度化や中勢以北において光ビーコン20基を整備するなど、交通情報提供の高度化による交通管制の最適化を図った。

鈴鹿市内の信号交差点10箇所を管制エリアに組み入れるなど、交通の安全と円滑化を図った。

老朽化した管制エリア内の集中信号機29基を更新した。

「あんしん歩行エリア」、「事故危険箇所」の整備、交通弱者等が利用しやすいバリアフリー対応型信号機の整備、交通弱者等を保護するための交通規制の実施、道路管理者等関係機関と連携した面的・総合的な事故防止対策など、安全で安心な交通環境の確保に努めた。

## 課題を踏まえた平成19年の取組み

交通信号機の高度化改良、道路標識等の整備を計画的に推進するとともに、「くらしの道交通安全施設整備事業」として、交通信号機の新設整備に取り組んでいく。

交通事故多発箇所の解消を図るため、道路管理者や地域住民・道路利用者等と共同した、事故多発交差点等の現場点検を実施し、必要な事故防止対策を講じる。

交通管制センターの高度化（伊勢サブセンターの下位装置の更新）を始め、朝夕の交通渋滞が顕著な名張市内の国道165号線等43箇所の信号交差点を管制エリアに組み入れるとともに、環境にやさしいLED信号灯器を整備するなど、交通の安全と円滑を図っていく。